

令和4年度オジロワシ傷病個体収容結果

表1 平成12～令和4年度オジロワシ傷病個体収容結果（令和5年3月31日時点）

年度	(件)											(羽)			うち 鳥フル
	交通 事故	列車 事故	風車 衝突	不明 衝突	感電 事故	鉛中毒	鉛暴露	落水	栄養 不良	その他	不明	死体	生体	収容個 体数	
平成12	1	1									12	6	8	14	
13	2	1		1		3			1		3	5	6	11	
14	1			2	2	6		1	1	2	2	8	8	16	
15	3	2	2			2		1	1			9	2	11	
16	2	2	1	2	1	2				2	2	6	8	14	
17	5		1	3		1	1		2		2	5	9	14	
18	3		3	1	1	1	1	1	3		5	9	9	18	
19	8	1	6	2		1			1		2	14	6	20	
20	5	2	5	1	1	3			1		5	16	7	23	
21	3	2	4	1		2		1		1	5	7	12	19	
22	3	2	4		1	2			2	3	7	14	10	24	
23	3	3	4	4	1	2	2	1		6	4	9	19	28	
24	1	2	3	1	1	2		2	1	2	2	8	9	17	
25	6	3	7	1	1	4			3	1	3	15	14	29	
26	3	4	3	3	2	1	1		3	1	2	16	6	22	
27	5	6		2	1	1	1		1	2	6	13	12	25	
28	7	4	3	1	1	2		1	1	4	8	19	13	32	
29	3	12	7	2	3				4	2	6	30	9	39	
30	5	10	2	1	3	1	1				3	18	7	25	
令和元	6	5	8	2	1	3	1			6	1	16	14	30	
2	8	11	6	1	3			2	4	5	14	34	19	53	1
3	5	11	1	1	4	1				7	8	26	12	38	7
4	4	13	5		3	1				2	38	47	19	66	6
計	92	97	75	32	30	41	8	10	29	46	140	350	238	588	14

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体があることによる。

※3 青森県で発生した風車衝突2件（平成23年度に1件、平成25年度に1件）を含む。

※4 平成19年度の「風車衝突」には「風車衝突の疑い」が1件含まれる。

※5 「鉛中毒」は血中鉛濃度 0.6ppm以上又は肝臓中鉛濃度 2ppm以上、「鉛暴露」は血中鉛濃度 0.1以上～0.6ppm未満又は肝臓中鉛濃度 0.2以上～2ppm未満であったものとなる。

※6 「その他」には、トラバサミ、羅網、食中毒、農薬中毒、感染症、街灯衝突、早期巣立ち、巣立ち失敗等が含まれる。

※7 平成28年度及び平成29年度の各原因別の収容件数が平成30年4月に発表したものと異なるが、これは剖検により収容原因が判明したことによる。

※8 「鳥フル」は収容後に遺伝子検査を行い、高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染していることが確認されたものを示す。

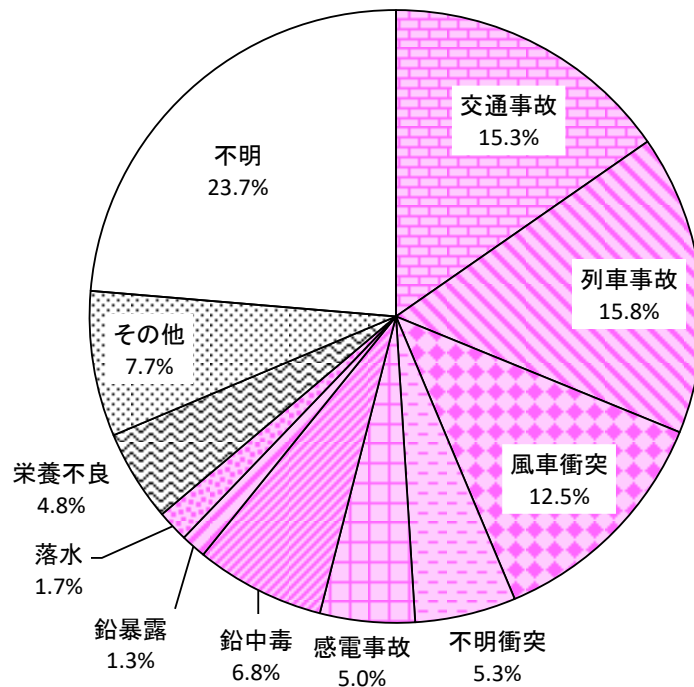


図1 オジロワシ收容原因別割合 (平成12-令和4年度)

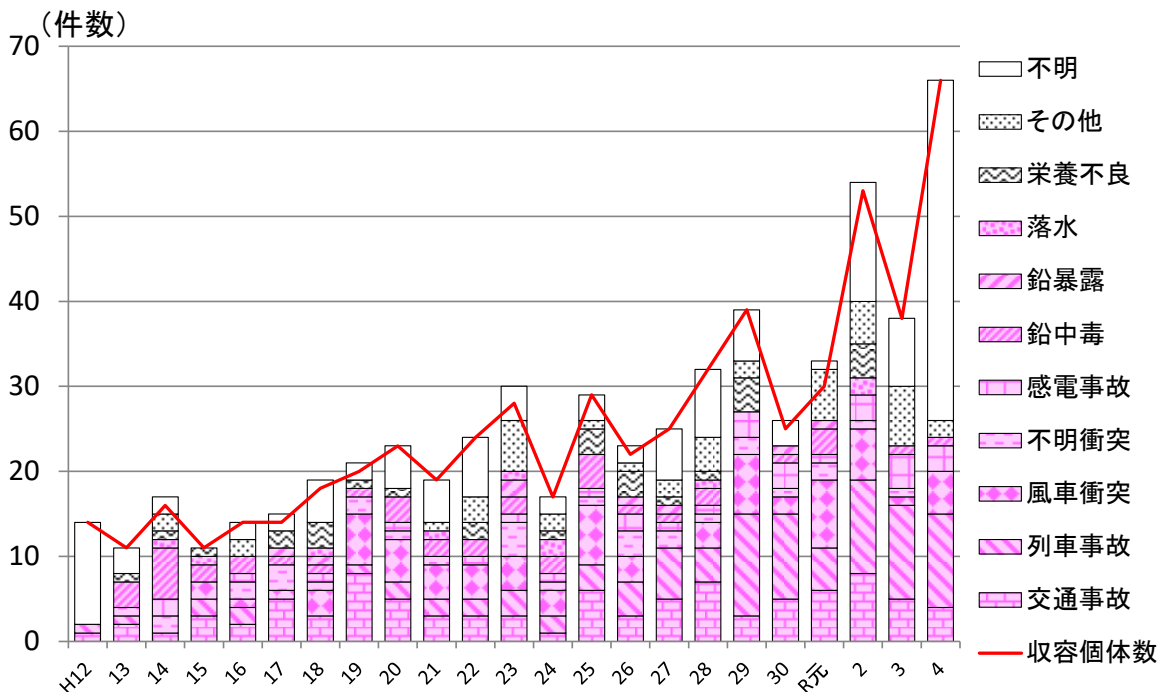


図2 オジロワシ年度別收容件数 (平成12-令和4年度)

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体があることによる。